

富士通スペシャル

100 GOLD FINGERS

PIANO PLAYHOUSE PART 11

ニューヨークから

ピアニストが

消えた!!



ジュニア・マンズ
シダー・ウォルトン
ジョアン・ドナート
ドン・フリードマン
ケニー・バロン
テッド・ローゼンタール
サイラス・チェスナット
ベニー・グリーン
山中 千尋
ジェラルド・クレイトン



Junior Mance Cedar Walton Joao Donato Don Friedman Kenny Barron
Ted Rosenthal Cyrus Chestnut Benny Green Chihiro Yamanaka Gerald Clayton

スペシャルゲスト
ボブ・クラシヨウ (b)
グラディ・テイト (ds)

出演者は都合により変更になる場合があります。
あらかじめご了承ください。

6/7日 東京 ゆうぽうとホール

開場 ▶ 15:30
開演 ▶ 16:30
料金 ▶ 全席指定 (税込)
S=¥8,000 A=¥7,000
B=¥6,000

主催 ▶ 読売新聞東京本社
後援 ▶ アメリカ大使館、スイングジャーナル
協賛 ▶ 富士通株式会社
企画制作 ▶ 株式会社オールアート・プロモーション
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

◎チケットの取り扱い
電子チケットぴあ ☎(0570)02-9999 [Pコード 315-165]
<http://t.pia.jp>
ローソンチケット ☎(0570)08-9999 [Lコード 73720]
(10:00~20:00)
オールアート ☎(03)3441-1173 (平日10:30~18:00)

◎お問い合わせ
オールアート ☎(03)3441-1173
〒141-0021 品川区上大崎3-3-9-219

10人10様の音色と個性が交差する珠玉のステージ。

アーティスト・プロフィール

◆ジュニア・マンス (p) Junior Mance — Part 1~10に参加

1928年10月10日イリノイ州エバンストン生まれ。ピアニストの父を持つ。10歳でプロとして演奏活動を開始。シカゴの大学で音楽を学んだ後、地元での演奏活動で注目を浴びる。NYに転出し、レスター・ヤング、ジーン・アモンス&ソニー・ステイツ等のバンドやダイナ・ワシントンの歌伴で活躍。56~57年キャノン・ボール・アダライトを経てデジジー・ガレスピーのコンボで名をあげる。ハード・バップのエッセンスが効いた。派手さではなくともじっくりと中身の濃いプレイヤーなブレイで人気がある。

◆シダー・ウォルトン (p) Cedar Walton — Part 1・4・8・9・10に参加

1934年1月17日テキサス州ダラス生まれ。高校時代にクラリネットを吹いていたがやがてピアノに転じる。多くのR&Bバンドで働いた後、55年にNYに転出。兵役を経てアート・ファーマー、ベニー・ゴルソンのジャズテットや58年ジジ・グライスのコンボに参加。ジョン・コルトレーンの「ジャイアント・ステップス」の録音にも参加した。62年から64年にかけてアート・ブレーキー・ジャズ・メッセンジャーズにピアニスト、アレンジャーとして参加した。現在はバップ・ピアニストのリーダー的存在である。「鈴の音」と形容される。強く弾いても美しい音が崩れないピアノタッチが特色。

◆ジョアン・ドナート (p) Joao Donato — Part 10に参加

1934年ブラジルのアクリ州オプランコ生まれ。3歳ごろから音楽的才能を發揮しカバキニーニョ(ブラジルの小型弦楽器)やハーモニカなど次々マスターし、8歳のときにオーケイションを手に「ルガー・コモ」を作曲(後にジルベルト・ジルが歌詞をつけた)した。アメリカでの活動が長く、ジャズ、ラテンなどの要素が混じった、少ない音数で驚異的なグルーヴ感を生み出すリズム感覚は独特のものがある。60年代からモンゴ・サンタマリア、セルシオ・メンデスらと共演してきたドナートは、ブラジル音楽界の至宝として熱狂的ファンが多い。ブラジリアン・スタンダードとして愛されるA Ra, Amazonas, Lugar Comum, Minha Saudade などはドナートの作品。小野リサの「サウダージ」(ドナートの作品集)により日本でも広く知られる。初出演だった前回公演でも会場を大いに沸かした。

◆ドン・フリードマン (p) Don Friedman — Part 7・8・9・10に参加

1935年5月4日カリフォルニア州サンフランシスコ生まれ。50年代初頭からデクスター・ゴードン、ショーティ・ロジャース、パディ・デフランコ、チェット・ベイカーらと西海岸で共演。58年NYに進出し、ベッパ・アダムスやディック・ヘイムズの伴奏者などを経て、61年ビル・エバンスに続く知性派白人ピアニストとしてRiversideから「ア・ディ・イン・ザ・シティ」でデビュー。翌年の「サークル・ワルツ」は代表作でもある。その後は自己のトリオを率いる一方、65年ハービー・マン、67年クラーク・テリー楽団などに参加。75年に日本で再評価され、EastWindにリーダー作「ホープ・フォー・トゥモロー」を録音。米国〜欧州でソロ中心の活動を続けており、エヴァンス派ピアニストとして近年ますます円熟味を増している。

◆ケニー・バロン (p) Kenny Barron — Part 1~10に参加

1943年6月9日ペンシルバニア州フレデリック生まれ。10代の頃、兄のビル・バロンがいたオーケストラで演奏活動をはじめ、高校時代はドラマーのフィリー・ジョー・ジョーンズと共演。61年にNYに進出。デジジー・ガレスピーのバンドを経て、ロン・カーター、フレディ・ハバードらのバンドで活躍。洗練されたテクニクとプリミアントなタッチの音色を奏でるピアニストであり、アメリカ・ジャズ・シーンの中心的存在。スタン・ゲッツのラスト・アルバムでの演奏は秀逸。98年ダウンビート誌投票ピアノ部門一位に輝く。ロサンゼルス・タイムズ紙は「世界のトップ・ピアニストの一人」と評し、ジャズ・ウィークリー誌は「現代で最も抒情的なピアニスト」と呼ぶ。

◆テッド・ローゼンタール (p) Ted Rosenthal — 初参加

1959年11月15日ニューヨーク・ロングアイランド生まれ。第2回モンク・コンペ優勝後、続けてさらにリーダー・アルバムをリリースし、評価を得て国際的にスポット・ライトを浴びる。リンカーン・センター・ジャズ・オーケストラやカーネギー・ホール・ジャズ・オーケストラなど輝々たるビッグ・バンドで演奏している。サイドマンとしてもアート・ファーマー、ジョン・ファデス、ベニー・ゴルソン等大物と共演。また、レニー・メリル、アン・ハンフマン・キャラウェイ等歌姫との共演も多く、評価も高い。ジェリー・マリガン没後にプロデュースしたアルバム「サンキュー・ジェリー」はグラミー賞にノミネートされた。ジャズとクラシック音楽をクロスオーバーさせた演奏活動で交響楽団とも活動中。

◆サイラス・チェスナット (p) Cyrus Chestnut — Part 5・6・7・9・10に参加

1963年1月17日メリーランド州ボルチモア生まれ。6歳から地元のバプティスト教会でピアノを弾き、9歳でクラシック音楽を学ぶ。パークリー音楽院でジャズの作曲と編曲を専攻し卒業後プロ入り。ウイントン・マルサリスやチック・コリア、デジジー・ガレスピーら著名なアーティストたちと数多く共演。映画「カンザス・シティ」ではその巨漢ぶりによってカウント・ベイシキに役で出演した。巨漢に似合わない繊細で軽やかなタッチのピアノは必聴。マンハッタン・トリニティ・ジョージ・ムラーツ(b)、ルイス・パッシュ(ds)とのピアニストとしても活躍中の、NYで注目を集める天才ピアニスト。

◆ベニー・グリーン (p) Benny Green — Part 5・6・7・8・9・10に参加

1963年4月4日ニューヨーク州生まれ。7歳からピアノを始め、父がテナークサクソフォン者だったため、ジャズに転向。父のコレクションのLPを聴いては真似て弾きながらジャズの世界をものにした。80年代後半ブルーノートで行われる深夜のジャム・セッションの常連となり、これを元にアート・ブレーキーのジャズ・メッセンジャーズに参加知名度を獲得、フレディ・ハバード・クインテットに抜擢された。カナダのグレン・グールド賞を獲得。オスカ・ヒーターソンの後継者としてレイ・ブราวン・トリオに加わり、多くのジャズ・ジャイアンツと共演した。年齢以上に円熟したテクニク、豊富なアイデア、エネルギーをピアノを聴かせる引っ張りだこのピアニスト。

◆山中千尋(やまなか ちひろ) (p) Chihiro Yamanaka — 初参加

パークリー音楽院を首席で卒業。在学中より幾多の賞を受賞し、ナンシー・ウィルソン、ジョージ・ベンソンやジョージ・ラッセルら数多くの有名アーティストと共演を重ねる。2001年10月に発表した第一作「Living Without Friday」は直後に大手CDショップのジャズ・チャートで一躍トップセールスをマークし、異例のデビューをかざる。また2002年12月の第二作「When October Goes」はジャズ・チャート初登場第1位を獲得。TVDキュメンタリーでも、その国際的な活動を紹介されさらに広く知られることとなった。2007年のスイングジャーナル誌「第57回日本ジャズメン・読者人気投票」<アルバム・オブ・ザ・イヤー>第1位を獲得、3rdアルバム「ABYSS」は、2007年度スイングジャーナルジャズ・ディスク大賞日本ジャズ賞に輝く。

◆ジェラルド・クレイトン (p) Gerald Clayton — Part 10に参加

1984年5月11日オランダ・ユトレヒト生まれ。幼少のころアメリカに移住。多様な音楽環境で育つ。(父はベーシスト、作曲家ジョン・クレイトン、叔父はアルト・サクソンのジェフ・クレイトン)ジャズ・ピアノと作曲をケニー・バロン他に師事する。ティーンエイジャーの頃より数々の賞を受賞。2006年のセロニアス・モンク・ジャズ・ピアノ・コンペティションでは2位を獲得した。ベニー・グリーン、マルグリユ・ミラー、ケニー・バロンとのデュオ・コンサート・シリーズをヨーロッパで展開している。またダイアナ・クラールのアルバムにも起用されるなど、NYタイムズ紙上でも絶賛される「時代の寵児」でもある。前回の公演でその恵まれた才能を惜しまなく披露し、好評を博した。

スペシャル・ゲスト

◆ボブ・克蘭ショウ (b) Bob Cranshaw

1932年12月10日イリノイ州エバンストン生まれ。50年代シカゴでエディ・ハリスと共演。MJTで活躍後61年にNYに進出。ブロードウェイのステージワーク、スタジオセッションなど活動の幅も広く、ソニー・ロリンスのツアーにも参加している。100 GOLD FINGERSには90年から毎回参加している。

◆グラディ・テイト (ds) Grady Tate

1932年1月14日ノースカロライナ州ダラム生まれ。60年代にクインシー・ジョーンズ楽団のドラマーとして活動を開始し、また72年からは歌手としても活動を始める。スマートで無駄のないタイトなドラミングはひっぱりだこ。歌はバラードとブルースが得意で、素晴らしいバリトン・ボイスを聴かせる。

公演日	公演地	会場	お問い合わせ	電話
5月 30Ⓟ	東京	Tokyo TUC※*	トウキョウタック	03-3866-8393
6月 2Ⓞ	札幌	札幌市民ホール	キョードー札幌	011-221-0144
3Ⓞ	大阪	大阪厚生年金会館 芸術ホール	PROMAX	06-4802-3438
4Ⓞ	名古屋	名古屋ブルーノート※	名古屋ブルーノート	052-961-6311
6Ⓟ	山口	阿武町町民センター 文化ホール	village	0838-25-6596
7Ⓞ	東京	ゆうぼうとホール	オールアート	03-3441-1173

※印はライブハウス公演となります。*印は出演者が異なります。事前にお問い合わせください。

コンサートの情報は、インターネットでもご覧いただけます。
URL▶ <http://jad.fujitsu.com/100gold/>

FUJITSU

富士通は、人と地球が
共生できる社会のために
700万トンのCO₂削減を
めざします。

※1
※2

※1:杉の木5本本分が1年間に吸収するCO₂量に匹敵 ※2:2010年までの累計削減量